

# 大学院で

授業は大変な時もありますが、新しい発見がたくさんありますよ。



名古屋大学大学院  
国際言語文化研究科修士2年  
郭思言さん

中国の大連出身。中国の大学では、日本語を専攻していた。交換留学で1年間、富山大学で学んだ経験がある。大学の日本語教師を目指して、大学卒業後は、名古屋大学大学院へ進学。現在、日本語の文法について研究中。

## 現役大学院生 インタビュー

**Q** 大学院に進学したきっかけを教えてください。

**A** 将来、中国の大学で日本語の先生として働きたいので、日本の大学院で専門知識を身に付けようと思ったからです。学校選びで重視したのは、教育現場に触れる機会があるか、自分の関心のあるテーマが学べるかどうかです。私の研究テーマは、「日本語の感情・感覚表現の類義分析」です。例えば、日本語の「喜ぶ」と「うれしい」は中国語に訳せばいずれも「高兴」となるため、中国人には両者の違いを理解するのが難しいです。ですが、我很高兴得接受了这份工作」を日本語に訳すと「私はこの仕事を喜んで引き受けた」となり、「私はこの仕事をうれしく引き受けた」とは言いません。このような類義表現の違いを通して、日本語における感情・感覚表現の在り方を追究したいです。

**Q** 大学院に入学してよかったことは何ですか？

**A** 大学院に入学する前に、言語教

育の理論的なことは多少わかっていましたが、実際に日本語を教えたことがないので、イメージがわからない部分が多かったのです。学習者の立場から日本語文法の問題を解くことはできましたが、教師の視点から、いかに効率的に教えるかを考えるのは、慣れるまで大変でした。

ですから、「日本語教授法」の授業で、教授法の理論を教えてもらえるだけでなく、受講生同士で体験談を話しあったり、教案を作ったりするので、今まで勉強した理論が具体化できて、大変勉強になりました。

**Q** 大学院を目指す人にメッセージをお願いします。

**A** 大学院では、いろいろな「苦」がありますが、それなりの「楽」もあります。

大学院生活は、一人で静かに研究するイメージがあるかもしれませんが、実はグループワークが多いのです。研究がなかなか進まない時に、みんなと相談しているうちに新しい発見が見つかった瞬間の喜びはたまらないです。



授業後の食事会の様子。先輩から卒業した先輩まで、みんなそろって研究の話をしたり、時にはプライベートな話題で盛り上がる。

